

西多摩医師会報

創刊 昭和47年7月

第385号 平成17年1月



『朝焼ける富士』 真鍋 勉

目

	頁
1) 年頭のご挨拶	真鍋 勉 … 2
2) 新年を迎えて	永井克明 … 3
3) 忘年クリスマス会	総務部 … 3
4) 会員の声	土田守一 … 6
5) 司馬遼太郎考	川崎健一郎 … 7
6) 山川日本史を分析する	坂井成彦 … 10
7) 感染症だより	西多摩保健所 … 14
8) 専門医に学ぶ	大友建一郎 … 15
9) 西多摩健康フォーラム2004	小机敏昭 … 17
10) 市町村国保担当主務者との懇談会	保険部 … 18
11) 西多摩学校保健連絡協議会	学校医 … 19
12) 市民健康講座	学術部 … 19
13) 公立福生病院に関する連絡会	広報部 … 20

次

	頁
14) 文芸随筆諸事百般	
短歌「ピアノ」	鹿野純 一 … 20
15) 伝言板	広報部 … 21
16) 地区だより	
羽村地区	込田茂夫 … 22
あきる野地区	葉山 隆 … 22
瑞穂地区	新井敏彦 … 23
秋川流域地域医療連携懇親会	近藤之暢 … 23
17) 各部だより	
学術部インフォメーション	学術部 … 24
18) 理事会報告	広報部 … 26
19) 会員通知・医師会の動き	事務局 … 29
20) 表紙のことば	真鍋 勉 … 30
21) あとがき	野本正嗣 … 30
22) お知らせ	事務局 … 31



年頭のご挨拶

西多摩医師会 会長 真 鍋 勉

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は記録的な猛暑に加え、台風が10回も日本に上陸し大きな風水害をもたらし、その復旧作業も終らぬうちに新潟中越地震が追い討ちをかけ、実に災害の多い一年でした。被災された方々に心からお見舞い申し上げます。今年は何よりもまずこのような災害のない年となりますよう祈りたいものです。

さて、昨年4月にスタートしました新執行部は、会務の執行に際し4つの重要項目を提案し、これを基に活動始めました。会報に掲載し重複する部分もありますが、これらについて経過報告を致します。その内容は、(1) 一次救急体制の整備—特に小児救急について、(2) 福生病院問題、(3) IT化の促進、(4) 会館問題の4項目でしたが、(1)、(2)については今年12月には昭島市で稼働始める徳洲会病院を視野に入れ急を要する問題として取り上げました。そして(1)については、地域医療部に問題提起し検討する中で、8月4日に医師会としては初めて三公立病院の院長と夫々の病院の小児科担当医師と地域医療部とがこの小児救急体制について座談会を開きました。現場の率直なご意見を伺い医師会として可能な限り対応する方法を見い出さねばならないと考えます。(2)についてはここでやっと福生新病院の概要が出来上り、それを受けてまずは当該する2市1町の医師会の正副会長に小生が加わり、病院からは正副院長と事務長のメンバーで「公立福生病院に関する連絡会」を立ち上げました。今後はこの連絡会を機能させ、医師会と病院間の連携を密にして行きたいと思っています。今回の連絡会で病院側からは「開放病床」の提案がありましたが、理事会で検討中です。さて(3)のIT化促進に関しては、東京都医療連携推進事業計画としてIT化の整備を行って来ましたが、今年度

は都の補助金事業として最後の年度となり、西多摩医療圏における「医療連携システム」を完成すべく「メール配信システム」や「画像情報送受信システム」などに取り組む予定であります。しかし、最も重要なことは、「システム」をいかに有効に運用するか、であり、それにはまず三公立病院の連携とシステムへの参入が最優先課題となると思います。また、システム整備の進捗状況をみて、会員の先生方に説明会を開く予定でありますので、是非ご参加いただきたいと思います。

(4)の会館問題については、これまで手付かずですが、近々に委員会を設置し検討を始める予定です。

以上4項目について現況を述べましたが、今年の医師会全体として最大の問題は、「混合診療」の全面解禁でした。この混合診療の全面解禁を昭和36年から続いた国民皆保険制度の崩壊の危機と捕らえ署名活動や地域集会が開催されましたが、当地区を含め多くの先生方の参加ご協力により、結果は「見送り」となり、現行の特定療養費制度の見直しで決着した事をご承知の通りであります。しかし、今後も規制改革路線や市場開放は進むでしょうし、2006年の通常国会に提出予定の医療保険制度改革法案の中身を見るまでは一息付いている間は無いかも知れません。現に同じ2006年4月には老健法の改定が予定されており、従来の基本健康診査に介護予防健診が加わりますが、この65才以上の高齢者に行う介護予防健診事業について東京都は「おたっしや21」と名付け、17年度より実施(単年度)するための、経費補助を予算化していますし、各自治体も準備に入っています。この介護予防健診事業に医師会がどこまで関与出来るか、今後の重要課題であり、各地区医師会も行政と早急に対応を始めていた

だきたいと思います。色々述べて参りましたが、最後に、急速に進む社会の高齢化に対処すべく国や都が次々と施策を講じて来る中で、我々医師会も高齢者医療と介護（保険）との関わりが重要になって来ます。よって、

高齢化に対応する地域医療の再編と介護との包括的なシステム作りを念頭に置き、先の4項目を中心に会務を執行して参りたいと思います。今年もなお、一層のご支援、ご協力を切にお願い申し上げます。



新年を迎えて

西多摩医師会 事務長 永井 克明

新年明けましておめでとうございます。皆様には日頃より、事務局の円滑な運営にご協力を賜りまして有難うございます。私も医師会にお世話になりまして、早いもので10年が経過致しました。全く新しい職域に入り、勉強すること反省することばかりの毎日でしたが、事務長としてこれまで大過なく就業できました事は、今までご指導頂きました全ての役員・会員の先生方、職員のお蔭と心より感謝いたしております。

事務局は、本年も関係する医師会・諸官庁・関連業界の方々とホットラインを親密に結び、必要な事項を的確かつ迅速に処理し、適切な情報を提供できますよう努力して参ります。会員の皆様のお役に立てる明るく親切的な事務局を心掛け、鈴木・野口・依田の3人の職員と共に目的意識を持って、優しく、厳しく、そして楽しく、日々新たに挑戦して参りたいと思います。

本年もご支援・ご指導の程宜しくお願い申し上げます。

西多摩医師会忘年 クリスマス会。

今年は12月になっても台風の影響で夏日になったというニュースもあったりして忘年会を忘れてしまいそうだったが、さすがに冬らしくなってきた12月13日に恒例の西多摩医師会忘年クリスマス会が「フォレストイン昭和館」で開かれた。参加人数は会員が53名、職員や家族105名（うち子供が20名）で盛会だった。

7時半に開宴し、最初に真鍋会長が挨拶された。会長の挨拶の内容は、アテネオリンピックの日本選手の活躍という明るいニュースがあった一方で災害の多い年であったこと、新潟県中越地震災害に対し医師会で義捐金を募っていること、混合診療に対しては断固反対していかなければならないといったことだった。続いて、前会長の宮川先生のご発声で乾杯に移り、早速和気藹々のクリスマスパーティーとなった。新会員の渡辺英一先生（羽村市の双葉クリニック）と原淳夫先生（青梅市の青梅坂本病院）に挨拶をしていただき、理事の先生方には子供たちへプレゼントを渡していただいた。（サンタの衣装がなかったのが残念！）

アトラクションは二人組のバンド vague に出演していただいたが、出演に際しては理事の田坂先生にお骨折りいただいた。バンド演奏の後、遅れて来られた新会員の菊池孝先生（青梅市

の菊池耳鼻咽喉科クリニック)に挨拶していただき、くじ引きに移った。今年の一等は、年賀状シーズンということもあり、テレビCMでよく流れている一体型のプリンターにしてみた。厳正な抽選の結果、小机副会長ご当選！

くじ引きの後、再度 vague に「夜空のムコウ」を演奏していただき、玉木副会長の挨拶で閉宴した。

(後日談) 翌日の理事会で、子供も来ていたし医師は禁煙を進める立場にあるのだから喫煙コーナーを作って分煙したほうがよかったという意見が野本先生から出され、それは当然のことであるというのが理事会の総意になり、新年の賀詞交歓会からは分煙とすることになった。皆様のご協力をお願いいたします。

(文責：総務部福祉担当理事 中野和広)







対岸の火事でよいのか？

土田医院 土田 守 一



新潟中越大地震発生より2ヶ月が経過しました。住民の方々の恐怖感や生活の不便さは我々の想像以上の事と思われれます。

個人的には義援金をだして、少しでも役にたてればと願うものですが、医師会としてもすばやく会員に呼応する事があってもよかったのではありませんか。

東海地震、関東直下型地震、更に富士山噴火などの大災害の起こる可能性が徐々に高まっているとの報道もあり、災害対策の充実を図る必要があると思いませんか。

昭和57年3月に「西多摩地区における災害時の医療救護計画」（医師会は地域防災計画にどのように参加するか）の策定がなされ、昭和60年に改正が行われて以来、継続して現状に即した改正がなされているのでしょうか。あまり関心が無かったような気がします。

阪神淡路大震災の発生日（1月17日）の近くに、例年、当医師会主催の賀詞交歓会なる集まりがあり、代議士、都議会議員、各自治体の長、警察署長、消防署長、保健所長、三師会長、等と医師会とが合わさったメンバーを見ると、あたかも防災協力機構の集まりであるかの感じがします。しかし、これらご来賓のご挨拶の中に、災害が発生したら、これこれこういう行動を起こしますとか、お互いに防災に協力していきましょうなどと、言われる方がいないことは、さみしい次第です。少しは話題になってもいいのではないかと思います。

私は青梅地区会の会員です。青梅市では、毎年8月末に市の総合防災訓練があります。昨年は自分の受け持ち小学校の校庭での訓練であったので、久しぶりに青梅医師会の救護班の一員として参加しました。ただ救護活動は旧態依然の処理状況で、負傷者が運び込まれると食物に蝇がたかるように誰かれとなく

皆で処理して終わりです。医師会長が出務した医師の役割の指示、備品の確認、参加歯科医師会の先生方の役割、保健所の看護師、病院職員の適切な配置などを決めてもらわなければ統制がとれません。そういう訓練が必要なのではないでしょうか。

昭和58年に作ったヘルメット、59年に防災服、半長靴、腕章などをそろえましたが、これらは休日診療所のロッカー内に無用の長物然と放置されています。またアルミ製の立派な救急箱も用意されており、その中の備品の充実と管理改善を提案したこともありましたが、現在そのままの状態で訓練の際に一度も使われた事ありません。

羽田沖日航機墜落事故の際、蒲田医師会の一先生が聴診器一つだけ持ってとりあえず現場に駆けつけたところ、一人の負傷者を診てくれと頼まれたが、処置する器材も薬品もなく、患者を移送しようにも周りに呼応してくれる人もなく、医師一人ではいかに無力であるかを実感したと述べられていたのを讀んだ事があります。

この様に災害出動時は、人員の連携と情報伝達のために指揮系統の普段の認識と対応が必要ではないでしょうか。

西多摩各自治体には、災害時に指定された避難所があり、そこに救護本部あるいは救護所が作られることになっていると思います。ではその救護所にどの医療機関が出て行くか。何も決められていないのではないのでしょうか。

たとえ、机上の計画で終わるとしても、各医療機関の分担、役割について予め決めて夫れ夫れにいつも認識を持ってもらうことも必要かと思えます。

今回の大災害を、対岸の火事とみないでこの機会に防災対策の再検討の論議を始められることを期待しております。

古い人間が、古い事を持ち出して勝手な事を申しました。不快に思われたらどうぞご容赦ください。



司馬遼太郎考

大聖病院 川崎 健一郎

私は歴史上の人物の伝記や歴史小説が好きだ。それらの作品を読むことによって、世の中を見る目が肥えてくるし、人生いかに生きるべきか、ということも自然に分ってくる。歴史は私にとっては、そういう意味では一番大事な師匠だと思っている。

最近読んだ伝記で印象深いのは、宮城谷昌光の『子産』(中国春秋時代の小国鄭の宰相子産を主人公として描いた作品で、孔子は、この子産と周公旦を尊敬する人物として挙げている)、津本陽の『巨眼の男』(西郷隆盛の伝記で、私はこの作品によって初めて隆盛の偉さが分った。実はこの作品を読むまでは、どうしても彼の偉さが分らなかったのである)、浅田次郎の『壬生義士伝』(小説の題材としてほとんど取り上げられなかった男、新撰組隊士の吉村貫一郎を主人公とした作品)、そして司馬遼太郎の『空海の風景』(これは歴史小説の範疇に入るかも知れないが、この作品によって空海や密教のことが、私のように無宗教の者ですら、おぼろげながらその概念をつかむことができた。やはり司馬氏の筆力のおかげだと思っている。この作品は不朽の名作『坂の上の雲』に勝るとも劣らぬ大作といってもいいと思う)。歴史小説で最近読んだのは、浅田次郎の『蒼穹の昴』である。これは清朝末期の物語で、世界で唯一の制度である宦官のことが詳しく書かれており、また欧州諸国の帝国主義の最盛期で、清国の領土がそれらの国々によって蚕食されつつある時代がテーマになっており、ロシアもそれに便乗して、満州を強奪し次いで遼東半島も手中に収め、次には朝鮮半島を窺っている時代が背景となっている。私はこの作品を読み終って書棚にもどそうとした時、たまたま『坂

の上の雲』が目に入った。この作品は10年ほど前に一度読んでいたのだが、その内容が蒼穹の昴とほぼ同時代のことを書いたものだったので、再度読む気になって読んだ。読み終って気が付いたことは、珍しいことに、巻1から巻6まで全ての巻に『あとがき』が書かれていることだった。しかもその総ページ数はなんと50ページもあった。ちょっとした短篇小説ほどの長さである。『空海の風景』のあとがきも14ページと長いものだった。あとがきは、たとえ書いてあってもせいぜい3～5ページぐらいが普通である。

まえがきが長くなってしまった。こちらで本論に入ることにする。私は、坂の上の雲のあとがきだけを、さらにもう一度通読して得た司馬遼太郎像を(空海の風景のあとがきも多少混えて)書こうとしている。ところで坂の上の雲という作品は、秋山好古(陸軍)と秋山真之(海軍)の兄弟が一応軸となって展開してゆく格好になっているが、厳密な意味では主人公はいない。なにしろ明治10年代から日露戦争が終るまでの長い間の物語だから、その時その時にいろいろな人物が登場して主人公のような立場になるのである。また、この作品の主要テーマは日露戦争であり、それを中心軸として彼の史観・人生観ならびに日本人・日本の国に対する熱い想いが籠められているのである。だから私は、この作品のあとがきの中で、彼の人間像を捉えるのに参考となる箇所を抽出し抜粋しながら、途中に私見を挟むといった形でこの稿を進めてゆくことにした。注：以下「」印は彼のあとがきの抜粋を示し、()印は私見を示すことにした。

先ずは、あとがきの抜粋から始める。

「たえずあたまににおいている漠然とした主題は、日本人とはなにかということであり、それも、この作品の登場人物たちがおかれている条件下で考えてみたかった」

「このながい物語は、その日本史上類のない幸福な楽天家たちの物語である」

（次の一節は名文であり、またこの作品の題名のもとにもなっている）

「楽天家たちは、そのような時代人としての体質で、前を見つめながらゆく。のぼって行く坂の上の青い天に、もし一朶の白い雲がかがやいていとすれば、それをのみみつめて坂をのぼってゆくであろう」（一読心にひびく名文である）

「民衆はつねに景気のいいほうでさわぐ。むろん開戦論であった。この開戦への民衆世論を形成したのは朝日新聞などであった」（現在の朝日新聞は、どちらかというと左寄りだが、当時はむしろ右寄りだったらしい）

「やがて国家と国民が狂いだして太平洋戦争をやったのけて敗北するのは、日露戦争後わずか40年のちのことである。敗戦が国民に理性をあたえ、勝利が国民を狂気にするとすれば、長い民族の歴史からみれば、戦争の勝敗などというものはまことに不可思議なものである」（この一節は深く印象に残る記述である）

現在、自民党が派閥解消をいくら叫んでもなかなか解消しないが、明治時代も似たようなもので——いやもっとひどかったかも知れない——中央政府は長州と薩摩が牛耳っており、軍も中央では長州が陸軍、薩摩が海軍を握っていた。ところが日露戦争当時の野戦軍（現地陸軍）は、総司令官が薩摩の大山で第1軍の司令官も同じ薩摩の黒木で、第2軍の奥は閩外だが第4軍の野津も薩摩であった。このことをさびしく思い、『ひとりぐらい長州人を入れてもいいのではないか』と中央にいた長州の山県参謀総長がいいだして、第3軍司令官に長州人の乃木を指名したのである。そして同じ長州人の寺内陸相と山県参謀総長は『司令官を長州がとった以上、参謀長は薩摩にせねばまずからう』ということで薩摩の伊地知を第3軍の参謀長として選んだの

である。乃木にとって最大の不幸は、藩閥による人事で伊地知が参謀長として選ばれたことである。中央の無責任な藩閥人事によって無能極まる参謀長が選ばれたのである。以上は余談なのでこの話はこれでやめておく。

「日露戦争を接点にして当時の日本人というものの能力を考えてみたいというのがこの作品の主題だが、こういう主題ではやはり小説になりにくく、なりにくいまで小説が進行している」（この頃、さすがの司馬氏もいささか難渋していたようである）

日露戦後に刊行された『日露戦史』は参謀本部が編集して大正2年から大正3年に亘って発行されたものだが、司馬氏はこの全10巻という膨大な書物を大阪の古本屋で「目方で売る紙屑同様の値段で買った」と述べ、「日露戦後発行された本の中で最大の愚書だ」ときめつけている。——陳舜臣は、ある時代の歴史はその時代が終ってから数十年後に書かれたものでなければ、本当の歴史としての価値はない。——と言っているが、それは王朝が替った場合に新王朝成立直後に書かれた歴史は歪められて記述されている（新王朝に都合の良いように）から価値がないというのである。——

「これによって国民は何事も知らされず、むしろ日本が神秘的な強国であると教えられるのみであり、小学校教育によってそのように信じさせられた世代が、やがては昭和陸軍の幹部となり、日露戦争当時の軍人とはまるでちがった質の人間群というか、ともかく狂暴としか言いようのない自己肥大の集団をつくって昭和日本の運命を途方もない方角へひきずってゆくのである」（以上は太平洋戦争をひきおこした軍部に対する司馬氏の批判であろう）ところで巻5のあとがきは、内容がガラリと変って、徳富蘆花と正岡子規の記述で、紙面の大部分を費やしている。すなわち、内向的で『うつ』の傾向がある蘆花と外向的で楽天的な子規を対照的に捉えて、当時の日本の文学界を俯瞰して述べている。

「明治10年代から日露戦争にいたる明治のオプティミズム（楽天主義）はたしかに特異な歴史をつくりえたが、しかしどの歴史時

代の精神も30年以上はつづぎがたいように、やがて終熄期をむかえざるをえない。どうやらその終末期は日露戦争の勝利とともにやってきたようであり、蘆花の憂うつが真之を襲うのもこの時期である」(秋山真之は実際に、戦後は僧侶になろうとしたが、周囲の人たちに反対されてあきらめたが、その代りに息子を僧侶にした)なお、これは余談だが『本日天気晴朗ナレドモ波高シ』という名文句を書いたのは、当時東郷司令官の参謀長だった秋山真之だった。蘆花や子規の名前が出たのでまた少し協道にそれるが、子規が俳句革新運動を開始したのは日清戦争開始の前年明治26年で、明治28年には、今度新しく発行された五千円札の顔になっている樋口一葉が『たけくらべ』を発刊、明治37年には与謝野晶子が『君死に給ふことなかれ』を発表、明治38年には漱石が処女作『我輩は猫である』を発刊している。ちなみに蘆花が『不如帰』^{ほととぎす}を発刊したのは明治31年である。以上で余談はやめる。

「この作品は、執筆時間が4年と3ヶ月かかった。書き終えた日の数日前に私は満49歳になった。執筆期間以前の準備期間が5ヵ年ほどあったから、私の40代はこの作品の世界を調べたり書いたりすることで消えてしまった」(司馬氏のしみじみとした述懐である)というところで坂の上の雲のあとがきの抜粋もここで打ち切ることにする。

ところで、司馬像を捉える一助として欠かせないのは『空海の風景』という作品である。このあとがきが14ページもあることはすでに触れたことだが、そのあとがきの書き出しの一節がなかなかの名文であるばかりでなく、その一節を読むだけでも難解な密教の概要もほぼ理解できるのでそれを抜粋する。

「風がはげしく吹きおこっているとする。そのことを、自分の皮膚感覚やまわりの樹木の揺らぎや通りゆくひとびとの衣の翻りようや、あるいは風速計でその強さを知ることがを顕教的理解であるとすれば、私は、多くのひとびとと同様、まだしもそのほうにむいている。密教はまったく異っている。認識や知覚をとびこえて風そのものに化ることであり、

さらに密教にあっては風そのものですら宇宙の普遍的原理の一現象にすぎない。もし即身にしてそういう現象に化ってしまうにしても、それはほんのちっぽけな一目的でしかない。本来、風のもとである宇宙の普遍的原理の胎内に入り、原理そのものに化りはてしてしまうことを密教は目的としている」以上がそのあとがきの最初の一節である。

寄り道ばかりしていたが、ようやく終着駅が近くなった。そこで到着前に、上記の作品以外の彼の作品をいくつか見てみよう。彼はその作品『義経』の終りのところで、「義経の首が酒漬けにされて鎌倉にはこぼれて来たとき、頼朝が『悪は、ほろんだ』と言い、それを洩れきいた世間の者も、また京の廷臣たちも——悪とは、なんだろう、ということを一様に考えこまざるをえなかった」と書いているが、司馬氏は、それらの人々の口を借りて、頼朝や後白河法皇に対する痛烈な批判をしたのであろう。このことは幕末、幼帝を手中にした薩長が、一朝にして善(官軍)となり、会津が悪(賊軍)となったのと同じである。ところで、『坂の上の雲』と『空海の風景』のあとがきは、どちらも本文の総括といった観があり、いわば本文の結晶ともいえる内容である。だから私は一つの試みとして、主としてそのあとがきだけを参考にして司馬像を書いてみたのである。私は、彼ほど長いあとがきを書く作家をほかに知らない。ほとんどの作家は、あとがきを書いていないし、たとえ書いたとしてもすでに触れたことだが、せいぜい3〜5ページぐらいのものである。彼のあとがきが長いのは、それだけ真剣に作品に取り組んでいる証しであり、強い想い入れがあるためだろう。亀井氏(アメリカ文学者)は、彼のことを『ひたむきに生きる心のつややかさを愛する人』だと評しているが、まことに的を射た評価である。彼の作品を読んだ人たちが強い感銘を受けるのは、そういう彼の熱い想いが伝わるからであろう。また、彼はその作品『幕末』のあとがきで、「暗殺だけは、きらいだ。人間のかざかみにもおけぬ」と書いているが、ただ、『桜田門外ノ変』^{さくらだもんがいのへん}だけは、彼ら(暗殺者たち)に昂揚した詩精神

があった」として例外として肯定している。また、『峠』のあとがきでは、「幕末期に完成した武士という人間像は、日本人が生み出した、多少奇形であるとしても、その結晶のみごとさにおいて人間の芸術品とまていえるように思える」と述べている。彼の人間に対する美意識が、どんなものであったかということが、この記述で窺えることができる。

彼は、清らかに潔くひたむきに生きる人たちを愛した。その反面、忘恩、無節操、無思想の輩^{やから}に対しては、強い拒否反応を示した。私は、人間としての至高の姿を彼に感じた。

彼の知識は多方面にわたり（全方位型）、しかもその見識は、高くかつ深遠であった。また行動力も他の追随を許さぬものがあり、必要とあらば、どんな遠い所へでも、また山間僻地へでも出掛けて行った。また、旺盛な知識欲（好奇心）も人一倍強かったのではなかろうか。また努力家、勉強家でもあった。

彼の書斎や資料室は恐らく集めた資料でうずまっていたのではなかろうか。また、豊かな想像力を伴った彼の描写力（筆力）は読者をしてテレビの生中継を観ているような錯覚を起こさせるようだった。

彼の非凡さを示す一例を示すと、彼が『空海の風景』を執筆するための準備のために、「空海全集を読んでいる同時期に『坂の上の雲』という作品の下調べに熱中していた」と述べている一事だけでも頷くことができるだろう。彼は空海を天才と評したが、そういう彼自身も天才だったと私は思う。彼は、不朽の名作『坂の上の雲』によって、ついに文壇の頂点に立った。そして彼は、人生とは一体何なのだろう。ということを模索し、日本人、日本の国への熱い想いを胸に抱きつつ生涯を閉じた。

おわり

（あとがき）

実は、2001年に食道癌、そして昨年2004年には胃癌と癌にばかり好かれて困っているのですが、その癌がこのところ徐々に私の体を蝕んでいるようです。そのためだろうと思うのですが、大部、体力の衰えを感じるようになりました。それ故、会報への投稿は今回をもって終りにしようと思います。これまで長い間、拙稿を掲載してくださったことに深く感謝致します。

編集委員の皆さん、そして西多摩医師会の会員の先生方のご健勝を切に祈ります。



山川日本史を分析する (2005年1月)

坂井医院 坂井 成彦

（元禄期の政治）

五代將軍綱吉の政治は、前半は大老堀田正俊が支えたが城中で刺殺される。後半は側用人柳沢吉保が担当したが、綱吉に諫言することは無かった。綱吉は儒学を好み、上野忍ヶ丘にあった林家の私塾を湯島に移して「聖堂学問所」として整備し、林羅山の孫「林信篤」を初めての大学頭に任命した。綱吉は寺社へ

の崇敬も厚く、「寛永寺」や「増上寺」を改築したり、「護国寺」の建立にも意を添えた。しかし、これは幕府の財政に負担を与えた。いっぽう、1685年以来、綱吉はしばしば「生類憐みの令」を發布した。のみならず、中野に犬小屋を作り、犬一頭当たり、米三合、味噌汁、干魚などを与えた。このため綱吉は「犬公方」と呼ばれることになる。金銀産出量の



減少と明暦の大火（振袖火事）による財政悪化の打開策として、綱吉は勘定奉行萩原重秀の建議で「元禄金銀」を铸造し、その差益金「出目」による財政補填をおこなった。柳沢吉保も萩原重秀も身分の低い出身であったため、綱吉の顔色を窺うことに汲々としていたという説がある。綱吉の独裁的文治政治と呼ばれたゆえんである。

薬草の名称や効能を研究する本草学では、貝原益軒の「大和本草」があらわされた。平安時代以来の「宣命暦」の誤差が大きくなったため、天文方の渋川春海はあらたに「貞享暦」を作成した。また、歌学方に北村季吟が就任した。また、土木工事や建築の必要から和算が発達し、関孝和が筆算式代数学や円周率・円の面積計算などを明らかにし、和算を大成した。

………そういえば、最近の東大の問題で円周率を求めさせる問題が出た。関孝和はさぞにんまりしたであろう。

（富士山）

死んだふりをしているが、あはれはまだ生きている。文豪漱石が「三四郎」の中で、東海道本線の車中で正体不明の先生にこう語らせている。

………私は富士山を見るたびに、日本は滅びると思うんですよ。

漱石は以下の事実を知っていたのだろうか？

1：富士山は平安時代に少なくとも三回爆発している。

2：1703（元禄16）年、関東地方に巨大地震。

3：1707（宝永4）年、富士山大爆発。

4：1923年（漱石の死後7年）関東大震災：震源地小田原。

漱石が専門外のことでまで詳しくあったというよりも、彼は第一高等学校で落第した際に、私塾江東義塾で英語で地理や幾何学を教えていたらしい。当時漱石は十九歳の弱年であった「英語教師 夏目漱石」（川島幸希：新潮選書）。ともかく、自分の死後の大震災まで予知できるのは文豪の直観力といえよう。

話は正徳期に跳ぶが、関東大震災後の混乱

の際に、朝鮮人・中国人虐殺、甘粕事件、亀戸事件が起きた。このさいの朝鮮人虐殺は数千人（山川 p310、実教 p306）、6000 人前後（三省堂 p295、東京 p319、桐原 p338）とわかれている。この数字にこだわるのは、6000 人という数字が阪神大震災の死者数に匹敵するからである。もちろん、阪神大震災の死者は不可抗力によるものであるのに対して、関東大震災後の殺害は意図的なものである。

話をもとに戻す。2と3は五代将軍綱吉の治世に悪影響をもたらした。人心の乱れを招いたことは勿論だが、実際の被害も大きかったらしい。詳しくは、「富士山宝永大爆発」（永原慶二：集英社新書）を読んでいただきたい。一橋大学名誉教授の真摯な労作である。また、巨大地震の歴史、予知、危機管理について丹念なレポートを重ねているのが「巨大地震が来る！」（産経新聞社）である。

（正徳の治）

新井白石は六代将軍家宣・七代将軍家継に政治顧問として仕えた。彼の事績については、「日本の時代史（全 30 巻）」第 15 巻「元禄の社会と文化：吉川弘文館」p71～p79（高埜利彦）に詳しい。

（将軍家宣）

政治不信の中、綱吉は 1709 年死去した。六代将軍家宣は側用人として「学べあきふさ」いや、「問部詮房」を登用し、老中の権力を抑制し、新井白石を政策ブレーンとした。家宣は綱吉の葬儀よりも先に「生類憐みの令」を停止し、中野に犬 10 万匹を収容した犬小屋も廃止した。家宣は 1710 年、代始めの「武家諸法度」はこれまでのように林家ではなく、新井白石によって全面的に一新された。とくに漢文体を改め十七条の読み下しの文体にした。柳沢吉保・林家などを排除して人的一新をはかった。また、皇統の断絶を防ぐために閑院宮家の創設がなされた。ただし、幕府は親王家の創設は特例であると釘をさしている。1711 年、朝鮮通信使が家宣の将軍宣下を慶賀するために来日した。白石は朝鮮国書

に「日本国大君」とあった呼名を「日本国王」と改めるよう主張した。朝鮮では「大君」とは王子の嫡子をさし、国王よりも低い意味となる。ちなみに、室町時代には足利将軍に対して「日本国王」と呼称していた。

学問と政治の一致をめざした白石にとって、現実主義者「萩原重秀」の存在は目の上のたんこぶ、であった。新井白石と萩原重秀の対立は、貨幣論で明らかである。金銀は天地よりの大宝であり、人為的に品質を落とした萩原重秀の改鑄は許しがたいものと白石は考えた。また貿易を通して異国に低位の金銀貨が流出することは、異国から侮られるものになるとの国家意識を持った。幕府勘定方に40年にわたって君臨した萩原重秀を罷免することは、白石の至上命題となった。白石の三度におよぶ罷免要求書に将軍家宣が応え、萩原を罷免したのは1712年。家宣の死去の一ヶ月前のことであった。跡を継いだ家継はまだ満三歳の幼児であった。

新井白石は慶長小判と同じ金の含有率と量の正徳小判を発行した。白石は1601年からの金銀流出が金のみでも700万両以上と概算し、「折りたく柴の記」さらなる大量流出を防ぐために貿易制限の強化を考えた。彼は1715年、正徳新例（「海舶互市新例」）を出し、中国船：年30隻、銀高6000貫。オランダ船：年2隻、銀高3000貫、と制限した。こうした保護貿易策はこの後も幕府によって基本的に継続された。1716年、幼児将軍家継はあっけなく病死。間部詮房と新井白石の理想は実質7年で潰えた。

世界史的には、この頃、フランスの絶対君主ルイ14世の晩年であり、ロシアの絶対君主ピョートル大帝の最盛期である。また、清の康熙帝が鄭成功の子孫一族を破り、台湾を含めた中国全土の統一が完成している。ちなみに、鄭成功の母親は日本人で、彼の活躍は近松門左衛門の浄瑠璃「国姓爺合戦」として上演されている。

（農業と鉱業）

江戸前期の大規模な治水としては、利根川の流路を江戸湾から太平洋へつけかえる工事

が行われた。また、老中松平信綱の指示のもとに玉川上水が開削され、羽村の堰から多摩川の水が取り込まれ、江戸への上水路が確保された。この上水は分流し武蔵野台地の灌漑にも使われるようになる。農民も小規模ながら新田開発を進めたため耕地面積は著しく増大した（実教p191）。金銭を支払う肥料「干鰯」（たとえば、九十九里浜でとれた鰯を大坂で売り捌いた。今では居酒屋でうるめいわしとして客の栄養になっている）「油粕」が木綿の肥料に使われた。最古の農業書として伊予の土豪土居清良の戦中日記第7巻が「清良記」。もっとも有名なものが、宮崎安貞の「農業全書」である。また、大蔵永常の「広益国産考」がそれに続く。商品作物として全国的に生産されたのが四木三草。（漆・茶・楮・桑＋麻・紅茶・藍）：覚え方（うるわしい茶にはこくがある＋朝口紅をつけてあいに行く）瀬戸内海沿岸では入浜塩田が開発された。金銀の産出量が減ったため、足尾・別子の銅採掘がさかんになった。出雲ではたたら精錬の技術により、上質の鉄を生産するようになり、中国地方では千歯扱や備中鍬などの農具が作られた。

（交通網の整備）

五街道＝東海道、中山道（仙ではなく山。確かに仙台は通っていない。板橋で始まり守山で終わっている）に加えて甲州道中、日光道中、奥州道中。道中は幕府が採用した呼称であるが、街道も一般に使われていた。律令の時代に、東海道、西海道という呼び名があったが、その海道がなまって街道となったらしい。府中には、東海道の府中（駿府）と甲州道中の府中があるので注意が必要。「甲州街道：府中宿」（府中文化振興財団）幕府公用の継飛脚と大名飛脚のほかに、町飛脚（定六ともいった。東海道片道6日かかったそうである。落語でよく言う「うちの宿六」というせりふと何か関係があるのだろうか？また、宿題が増えた）

（川と海の交通）

角倉了以が生まれて60年以上たって河村

瑞賢が生まれている。この二人は別時代の人間といってもよい。角倉家はその字の示すとおり、もともとは土倉を営んでいた。朱印船貿易で活躍するとともに富士川、高瀬川の河川を整備した。方広寺再建の資材を運んだのはこの高瀬川を上下する高瀬舟である。河村瑞賢は材木商として明暦の大火の後の木材高騰で巨利を得た。1670年代に酒田を境に北を回る東廻り航路、南を回る西廻り航路を整備した。この西廻り航路から北前船が出た。これは越前・越中の荷主兼船主が蝦夷地の産物を瀬戸内海沿岸の諸港で売りさばいたものである。南海路と対称形を描く航路になっている。南海路（江戸－大坂）では菱垣廻船・樽廻船がすでに就航していた。当初樽廻船は主として酒荷を運んだが、のちに積荷の種類を増やしたため、菱垣廻船との間に争いが起きたが速力にまさる樽廻船がこれを制した。江戸の十組問屋は大坂の二十四組問屋と提携し、酒・紙などの商品買付けの独占権を握った。この権利は運上・冥加という営業税を幕府に納めることで保障された。

諸藩は米などの蔵物の販売のため大坂・江戸に蔵屋敷を置いたが、そこで米は商品となった。蔵元・掛屋といった商人がいったんこれを管理し、問屋商人が江戸の十組問屋・大坂の二十四組問屋という流通ルートに乗せて換金した。西廻り航路を重視すれば、大坂が物資集散地となり、江戸は大消費地となる。一方、江戸では俸禄米を旗本・御家人に配り札差で換金するという制度を設けた。札差は幕府の米蔵を中心にぐると蔵宿を配置し、金融も営んだので、札差は旗本・御家人の生活に大きく関与するようになる。また、民間商人の手をへた商品を納屋物と呼んだ。その取扱量はしだいに蔵物を上回るようになる。

（貨幣と両替）

幕府は貨幣鑄造権を独占し、金・銀・銭の三貨を鑄造した。金座：計数貨幣である小判・一分金が後藤庄三郎の極印で鑄造された。1両＝4分＝16朱の4進法。東日本では金遣いが中心となる。銀座：丁座・豆板銀などが

鑄造された。取引の際に目方・品位をはかり単位は貫・匁（銀一貫＝1000匁）（銭一貫＝1000文）であった。西日本では銀遣いが中心となる。錢座は銅または鉄の銭を扱い、全国各地に設けられた。（私としては2008年の北京オリンピックで、四位の選手には鉄メダルをあげてもいいと思っている。そんなものいらんと選手に言われそうだが……）実際には、三貨の交換率はその時の相場によって決められた。現在の貨幣価値では、1両は約5万～6万円に相当する。両替商には本両替と銭両替があり、本両替では大坂十人両替（天王寺屋・平野屋・鴻池など）と三都の三井両替が有名だった。越後屋呉服店は三井高利の（現金掛け値なし）で中学校でも習った。

（元禄文化）

元禄の社会に顕著な生産力の増大は、文化活動の担い手とそれを支持する庶民・農民たちを登場させた。浮世草子＝井原西鶴の「好色一代男」や「日本永代蔵」・「世間胸算用」などを愛読したのは大坂・京・江戸の町人たちであった。俳諧＝松尾芭蕉が「奥の細道」を完成できたのは、紀行の各地で芭蕉一行を支えた富裕な農民のおかげである。人形浄瑠璃＝近松門左衛門は「曾根崎心中」などの上演によって庶民の支持を得た。この時期の文学、特に西鶴は太宰治に大きな影響を与えることになる。歌舞伎：江戸には荒事の市川団十郎、上方には和事（恋愛）の坂田藤十郎、芳沢あやめが出た。



感染症だより

あけましておめでとうございます。今年も大きな感染症の流行がおきませんように。よろしくお願い申し上げます。

<全数報告>

第48週（11.22～28）から第51週（12.13～19）のあいだは、一件も報告がありませんでした。

2004年第1週から第51週までに西多摩保健所に報告があったものは、三類感染症の腸管出血性大腸菌感染症が5件、四類感染症のA型肝炎1件、五類感染症のアメーバ赤痢1件、後天性免疫不全症候群1件で、総数は8件です。

<定点からの報告>

インフルエンザ定点報告が、第51週にあきる野市の定点と瑞穂町の定点よりありました。タイプはA型でした。都健康安全センターでは、主にA香港型が検出されています。学級閉鎖の報告は、まだありませんでした。

	48週	49週	50週	51週	2004年
	11.22～28	11.29～12.5	12.6～12	12.13～19	累計
RSウイルス感染症	0	2	1	0	5
インフルエンザ	0	0	0	3	1,304
咽頭結膜熱	0	0	1	1	112
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4	4	13	14	306
感染性胃腸炎	63	60	77	90	1,519
水痘	21	15	7	20	306
手足口病	11	11	2	3	89
伝染性紅斑	3	4	3	1	212
突発性発しん	1	1	1	5	147
百日咳	0	0	0	0	8
風しん	0	0	1	0	42
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	95
麻疹(成人以外)	0	0	0	0	12
流行性耳下腺炎	10	24	20	15	197
不明発疹症	0	0	0	0	1
MCLS	0	0	0	0	0
合計	113	121	126	152	4,355

<コメント>

- ・インフルエンザ定点報告は、第51週に、あきる野市の定点から2件（9歳男児と10歳の女児）、瑞穂町の定点から1件（8歳男児）あった。あきる野市の男児と瑞穂町の男児のタイプはA型だった。
- ・RSウイルス感染症の報告が、第49週にあきる野市の定点から2件、第50週に瑞穂町の定点から1件あった。
- ・感染性胃腸炎は、第51週で定点あたり18.0件と流行している。
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の増加が見られており、注意が必要である。
- ・水痘および流行性耳下腺炎の報告も、依然高めで推移している。

<2005年もよろしくお願いします>

感染症発生動向調査（サーベイランス）は、先生方のご報告があつて初めて機能します。

今年も先生方のご協力をお願い申し上げます。また、体制強化に努めていきたいと考えていますので、忌憚のないご意見をお寄せください。

（文責：西多摩保健所保健対策課感染症対策係）

専門医に学ぶ 第1回

問題

【症例】 68 歳男性

【主訴】 失神

【既往歴】 平成 8 年より異型狭心症にてニコランジル内服中

【家族歴】 特記事項なし

【現病歴】 半年ほど前より眼前暗黒感が出現していたが放置していた。平成 16 年 10 月 22 日仕事（清掃業務）中に失神、数秒後に意識を回復したが転倒し打撲した。11 月 11 日自動車の運転中に座ったままの状態ですぐに再び十数秒間の失神が出現したために外来を受診した。失神中・失神後に全身痙攣・麻痺などはみられなかった。

【身体所見】 心音純・心雑音なし。呼吸音正常。神経学的所見なし。他に異常所見なし。

【検査所見】 採血：異常所見なし。図 1 は平成 16 年 10 月 27 日健康診断時の心電図、図 2 は 11 月 15 日外来受診時の心電図である。

【問 1】 心電図の所見は？

【問 2】 疑われる疾患は？

図 1 10月27日 健康診断時の心電図

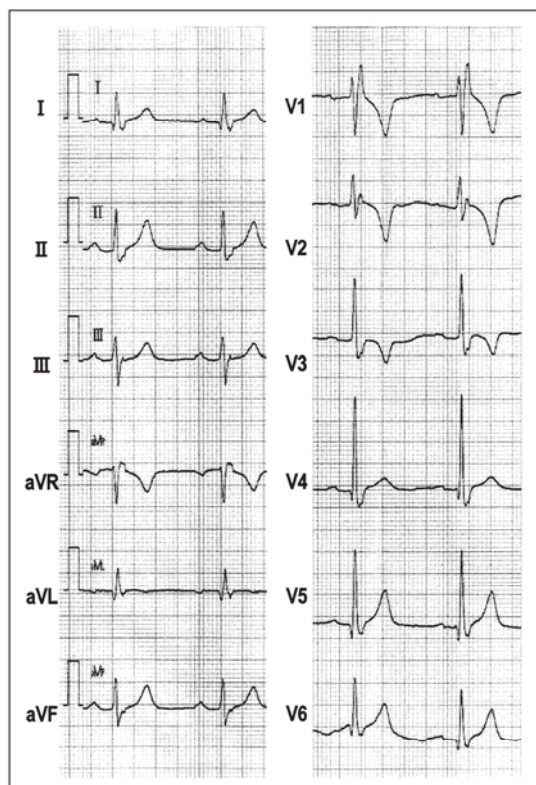
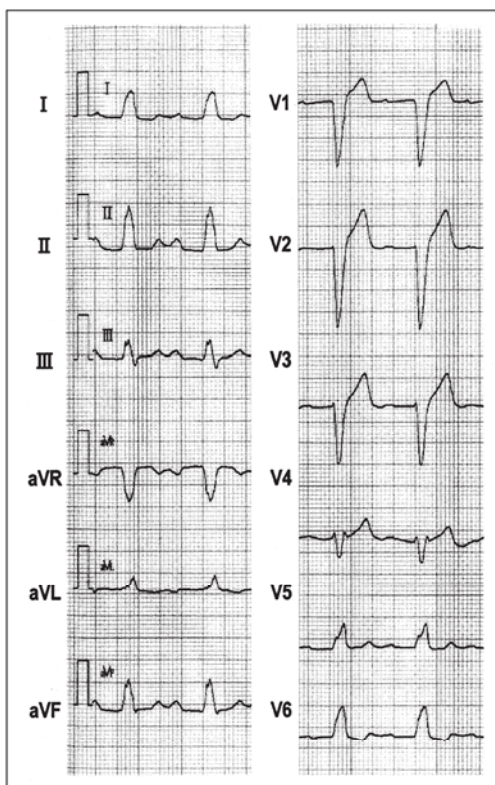


図 2 11月15日 外来受診時の心電図



解答と解説

青梅市立総合病院循環器科部長 大友 建一郎



【問1の答え】

図1：洞調律（心拍数 60/分）、1度房室ブロック（PQ 時間 0.24 秒）、完全右脚ブロック（QRS 幅 0.14 秒、V1 誘導で rSR' 型）。QRS 波の電気軸は -10 度で正常。V1 から V3 で陰性 T 波を認めるが脚ブロックに伴う 2 次性的変化と考えられる。図2：洞調律（心拍数 79/分）、1度房室ブロック（PQ 時間 0.32 秒）、完全左脚ブロック（QRS 幅 0.14 秒、V1 誘導で QS 型）。V5、V6 の ST 低下は脚ブロックに伴う 2 次性的変化と考えられる。

【問2の答え】

右脚ブロックと左脚ブロックが時間差をもって交互に出現する病態を交代性脚ブロックあるいは両脚ブロックと呼ぶ。心房から心室への刺激伝導系は図3のように心房→房室結節→ヒス束→右脚（右心室へ）・左脚（前枝と後枝に分かれ左心室へ）と伝わる。一般に房室結節の伝導障害は迷走神経緊張に基づく機能的なものであり 1 度あるいは 2 度 Wenckbach 型ブロックとしてみられ治療を要しないことが多い。これに対してヒス束以下の伝導障害は器質的病変に基づくものが多く、当初は 1 度ブロックであっても 2 度 Mobitz II 型ブロックから完全房室ブロックへ進行する可能性が高いため原則的にはペースメーカーの適応と考えられる。ただし全ての脚ブロックが完全房室ブロックへ進行するわけではなく、その進行については複数脚枝の障害の有無が重要である。すなわちヒス束以下の脚枝を図3のように右脚・左脚前枝・左脚後枝の 3 束に分けて考えた場合、右脚ブロック単独・左脚ブロック単独・左脚前枝ブロック単独（高度左軸偏位）・左脚後枝ブロック単独（高度右軸偏位）の各々の単独ブロックでは完全房室ブロックへ進展する可能性はほとんどないが、右脚ブロック+左脚前枝ブロック（右脚ブロックに左軸偏位を伴う）あるいは右脚ブロック+左脚後枝ブロック（右脚ブロックに右軸偏位を伴う）のような 2 束ブロックや本例のような交代性脚ブロック（3 束ブロック）では完全房室ブロックへの移行の可能性を念頭に置き、めまい・失神などの症状が出現した場合にはヒス束電位図の検査を行うことが望ましい。検査では大腿静脈より心腔内へ挿入した電極カテーテルによりヒス束電位を記録し、心房波（A）・ヒス束電位（H）・心室波（V）の間隔を測定、どの部位が延長あるいはブロックを呈しているかにより伝導障害部位を同定する。本例では図4に示すように HV 時間は 135msec（正常 <50msec）と著明に延長しておりヒス束以下の伝導障害が疑われたため心臓ペースメーカーの植え込みを施行、術後めまい・失神は消失した。

最後になりましたが、症例をご紹介いただきました小作駅前クリニック 奥村充先生に深謝いたします。

図3 刺激伝導系とヒス束電位図

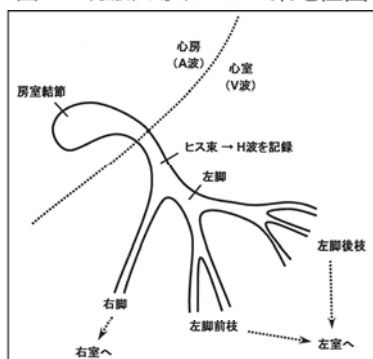
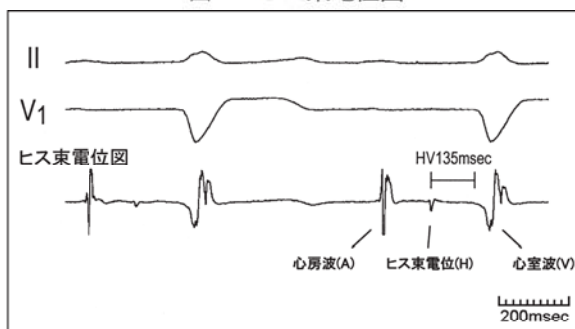


図4 ヒス束電位図



《西多摩健康フォーラム 2004》

11月20日(土)、松原村やすらぎの里において「西多摩健康フォーラム 2004」(西多摩健康フォーラム 2004 実行委員会(委員長 真鍋勉会長)主催、事務局 西多摩保健所)が開催された。今年のテーマは「みんなでつくろう!健康西多摩 21」、今回で8回目になるこのフォーラムは市民参加型のすばらしいものに成長している。住民向けプログラムとして、講演会「温泉を生かして健康づくり」(助中央温泉研究所長 甘露寺泰雄氏)が行なわれ、展示会場には各市町村の健康づくり推進員活動・市町村独自の健康づくり・地域からのメッセージグループの健康づくり・保健所と地域の活動・西多摩健康フォーラムの変遷などが発表された。

午後にはステージプログラムも行なわれた。まず地域からのメッセージ、市民活動発表が行なわれ、奥多摩町保健推進員活動・日の出町 15 自治会健康づくりの会活動・NPO 法人青梅こども未来活動・健康はむら 21 審議会活動・松原村訪問歯科相談員活動の 5 つの活動が発表された。健康づくり活動の各地域における独自性がみられるとても参考になる報告であった。続いて「西多摩健康フォーラムは、翔び立つ!! ~過去・現在 そして未来へ」をテーマに、パネルディスカッションが行なわれた。司会は西多摩保健所長 早川和男氏、パネリストは 3 名で、フォーラム開始当初 2 年間保健所長であった現、東京都中央区保健所長 赤穂保氏が「フォーラムの開始と地域の健康づくり戦略」、西多摩医師会副会長 小机敏昭氏が「地域医療サイドで見続けた西多摩の健康づくり」、奥多摩町長 河村文夫氏が「町づくりの基盤は住民の健康づくり、奥多摩町の将来」というテーマで報告が行なわれた。その後のディスカッションでは西多摩地域では地域の特性を生かした地域全体での健康づくりへの取り組みの重要性が討議され、会場一杯の 8 市町村福祉部関係者を始め、一般参加者達の共感をよんでいた。討議途中で、西多摩地域保健医療推進協議会会長 西村邦康先生のコメントがあり、終了後、セレモニーとして都議会議員 野村有信氏のご挨拶、さらに 8 市町村長のご挨拶、そして真鍋 勉西多摩医師会長の実行委員会会長としての挨拶があった。

そして最後に松原村坂本義次村長から健康なまちづくり「ひのはら宣言」が朗読され、閉会となった。健康づくりへの医師会の関与の重要性と期待の大きさが強く感じられた 1 日であった。

「西多摩健康フォーラム 2004・ひのはら宣言」



私たちは、
ヘルスプロモーションの考えに基づいてお互いに協力し合い、“いきいきとした健康なまち 西多摩”をめざしてきました。
これからも、私たち、住民、関係団体、市町村、保健所は、みんなの持ち味を生かし、支え合いながら、健康づくりを進めていきます。
そして、一人ひとりが生涯を通して健康と思えるようなまち、生きていて楽しいと感じて生活できるようなまちにしていきます。

平成16年11月20日

西多摩健康フォーラム2004実行委員会

(文責：副会長 小机敏昭)

『市町村国保担当主務者との懇談会』報告

毎年行われている市町村国保担当主務者との懇談会が11月25日に医師会館にて開かれました。医師会からは副会長はじめ7名、自治体からは各市町村の課長を含め15名が参加しました。

例年は各自治体の保険医療費動向が報告されていましたが、今年は皆様方にアンケートを行い、医師会側から質問を事前に各自治体にお渡しして書面での回答と当日補足説明という形を取りました。皆様から頂いた質問の中から始めに審査全般に関するものへの回答を報告します。

1. 市職員として連合会が審査終了のレセプトをどのように処理しているか？

(答) 市職員はレセプト点検には直接携わってなく、後述のごとく、点検は基本的に業者委託か、有資格者を臨時職員として雇い入れる形をとっている。審査終了後のレセプトは所定の場所に保管している。

2. レセプト点検業務の責任者は誰か？

(答) 各自治体の国保担当課長。

3. 点検業務をどのように契約しているか？

(答) 自治体により異なり、業者委託している場合と有資格者を臨時職員として嘱託契約して直営している場合とある。

4. 減点となる再審査通知書が半年遅れで、2～3ヶ月分まとめて医療機関に通知されるのはなぜか？

(答) 点検には単月点検と縦覧点検（3～4ヶ月単位）があり、縦覧点検は単月点検終了後、3～4ヶ月単位で委託業者あるいは嘱託契約している臨時職員が点検を行い。最短で5ヶ月目に国保連合会に再審査提出、6ヶ月目に再審査の結果について回答がある。結果、半年後に2～3ヶ月まとめて医療機関に通知されることになる。

次に減点についての質問の回答を報告します。

1. 腹部エコー検査『ドップラー加算』の減点について

(答) 個々の症例によると思われる。

2. 特定疾患療養指導料及び老人慢性疾患生活指導料の算定について

(答) 保険者から他院のレセプトを参考として再審査請求の申し出が出された場合、点数表の解釈上、査定となる。

3. 胸部レントゲンの透視のみ行った場合の算定について

(答) 算定となる。

4. 糖尿病の場合経過観察の為2週間ごとに検尿、血糖の検査を行う場合減点されてしまう事があるが、月に検査は何回迄と決まっているのか？

(答) 回数については症例の必要性による。

5. 処方箋料（7種以上）で減点されないと思われる場合についても減点されるが

(答) 保険者で、調剤レセプトを参考として再審査請求の申し出が出された場合、点数表の解釈上、査定となる。

6. 高血圧症の方へアーチストを 5mg 1T2x で処方し、調剤薬局でアーチスト 2.5mg 2T2x に変更した場合保険審査に問題があるか？

(答) 薬局が医師の処方箋どおりに処方しないことに問題がある。

7. 心臓弁膜症の方の抜歯の際に感染性心内膜炎予防のために抗生物質を投与するのは審査で問題となるか？

(答) 医学的必要性がレセプトに表記された場合には、審査となる。

詳細は東京都国民健康保険団体連合会 審査課審査第一係

(電話 03-5326-0871 ダイヤルイン) 迄のことでした。

今回、私は初めて参加し司会を致しましたが、アンケートをもとに進められ有意義であったと思います。今後も会員の方々のお知恵を拝借してさらに有意義な会になることを希望致します。

(文責：保険部 田坂哲哉)

第20回西多摩学校保健連絡協議会報告

日時：平成16年11月25日

会場：東京都青梅合同庁舎

演題：学校検尿異常児への対応

講師：公立福生病院 小児科 松山 健 先生

11月25日に多数の学校医、養護教諭、教育委員会関係者の参加により学校保健連絡協議会が開催されました。今年の講演は、学校における健診で検尿の異常が認められた場合、学校医や養護教諭がどのように対応したら良いかなどについて行われました。講師には昨年好評だった公立福生病院の松山健先生を迎え、学校における検尿の歴史から今後の展開に至るまで詳細に分かり易く講演され、質疑応答も大変活発に行われました。

なかでも現行システムの問題点として

1. 微少血尿の頻度が高く本人、保護者へ過度の不安を与える事がある
2. 不規則な月経の影響を避けることができない
3. プライバシーの問題から最終診断名を把握する機構がない

等が挙げられ、今後の検討課題としたいとのことでした。

(文責：学校医担当 瀬戸岡俊一郎)

市民健康講座

11月27日(土)午後2時30分より羽村市コミュニティーセンターにおいて、フリーアナウンサー 遠藤泰子氏を講師にお迎えし、「自分らしく生きる」と題し、市民健康講座が行われました。晴天の土曜日の午後にもかかわらず、134名の参加者がありました。

真鍋会長の挨拶に続き、遠藤泰子氏の友人と気軽に話す様な口調で講演が始まりました。ご自分の酒による失敗談を披露し、それによる人生最大の危機、奈落の底からはい上がったご自分の体験を、笑いを交えての講演でした。「言」という字は「口と心・口から出る心」の意味で、言葉には心が出てしまう。肩の力を抜き、自然体で一日一日を大事に生きる。と話し講演を終わりました。

(文責：学術部 細谷純一郎)

公立福生病院に関する連絡会報告

さる 11 月 30 日午後 7 時半より福生病院新館 4 階会議室において、第 1 回目の連絡会議が開催された。病院側から諸角院長、松山副院長、事務長、医事課長、医師会側から真鍋会長以下田坂、渡辺、新井、横田の各先生および筆者の 6 名が参加した。

まず病院長から地域に密着し、医師会との協力体制に基づく新病院作りについての抱負が語られた。次に真鍋会長より徳洲会病院が昭島に開院するというマイナス要因はあるが、医師会としては大いにバックアップしていきたいと挨拶があった。

その後新病院の建設計画について事務長より説明があり、病床数 370 (予定:うち ICU 6 床)。診療科 17 (歯科口腔外科が新設の予定)、その他回復期リハビリテーション 47 床、人工透析 25 床、検診センターが併設される予定とのこと。建物は地下 1 階、地上 7 階、延べ床面積 27,000 m²、立体駐車場 360 台が併設される。年次計画としては H 17 年度実施計画委託、H 18 年度本體工事着工、H 20 年度第一期オープン (8 割の完成)、H 21 年度新病院フルオープンの予定。

次に現在の運営状況および今後のとりくみについて説明があった。常勤医数について現在はいきなり状況ではあるが、漸次満たされていく予定である。経営状況について H 15 年は黒字であるという数字が示された。

最後に今後の取り組みとして、従来からの医療機関相互連携のさらなる強化のために開放型の病院を目指す。(開放病床設置、開放型登録医制度の導入、開放型共同指導) これについては今後病院側からの説明がなされる予定であるが、全てが厳密な制度ではなく、紹介患者の顔を見たり、カルテで経過を見させてもらうという程度の行為も含まれるようである。以上の計画は細部においては未定の部分もあり、設計も変更される部分もあるようであるが確定された部分については今後も逐次報告される予定である。

(文責：広報部 込田茂夫)

文芸随筆諸事百般

ピアノ

福生市 鹿野純一

なつかしき誰もひかざる古ピアノ
孫ひきはじめ明るくなりぬ

市民館孫のピアノ発表会
最前席で心休まず

アナウンサー明るい声で注意する
気づいてみれば孫の声なり

待ちおりし孫の演奏カメラとり
夢中になりて音は流れる

ベートーヴェンエリーゼのためにひく位
腕をみがけと願う毎日

新年の夕暮れピアノを楽しみて
アンコールの声胸にこめつつ

伝言板

平成17年新年賀詞交歓会開催のご案内

日 時：平成 17 年 1 月 22 日（土）午後 6 時

場 所：青梅市福祉センター 「ふよう」

アトラクション キーボード演奏 関 裕子さん、フルート演奏 村野 直子さん

囃 子 五日市小和田囃子連の皆さん

会 費：5,000 円 〈余興・福引など用意いたします〉

第3回西多摩医師会臨床報告会のご案内及び演題募集について

日 時：平成 17 年 3 月 23 日（水） 午後 7 時 30 分から 9 時 30 分

場 所：青梅市立総合病院 南棟 3 階講堂

演題募集要項

西多摩医師会会員の皆様の臨床での貴重な経験を発表してください。

演題名および抄録を西多摩医師会へ FAX してください。

発 表 者 西多摩医師会会員に限ります。

コメディカルのご発表は会員との共同発表になります。

発表希望者が多数の場合、次回発表とさせていただきます。

発表内容 症例報告、臨床研究、医院の運営方法、その他会員が聞いてためになることなら何でも構いません。

発表時間 1 演題 10 ～ 15 分でご発表いただき討論を含めて 20 分の予定です。

応募要領 発表内容を 400 字程度にまとめて FAX してください。

発表者の抄録は、医師会会報に掲載します。

尚、スライド・OHP 等使用を明記してください。

募集期間 平成 16 年 11 月 15 日（月）～平成 17 年 1 月 15 日（土）

第3回パネルディスカッション「呼吸器疾患」のお知らせ

日 時：平成 17 年 2 月 19 日（土） 午後 2 時～5 時

場 所：公立阿伎留病院 1 階講堂

テーマ：「肺癌」

1. パネルディスカッション

(1) 「肺癌の診断（見落とさないために）」 佐野内科クリニック 佐野 茂男 先生

(2) 「肺癌の内科的治療」 公立福生病院 内科 松原 弘明 先生

(3) 「肺癌の外科的治療」 青梅市立総合病院 胸部外科 白井 俊純 先生

(4) 「肺癌患者の症状マネジメント」 日の出ヶ丘病院 ホスピス 沖 陽輔 先生

2. 症例検討

出題者：青梅市立総合病院 呼吸器科 鶴浦 康司 先生

三公立病院勉強会のお知らせ

日 時：平成 17 年 3 月 2 日（水） 午後 7 時 30 分～

場 所：公立阿伎留病院 講堂

演 者：公立阿伎留病院 副院長 西成田 進 先生

公立福生病院 副院長 松山 健 先生 （演題は未定です）

地区だより



羽村地区

羽村市医師会忘年会

込田耳鼻咽喉科医院 込田 茂夫

恒例の羽村市忘年会が12月6日、例年通り割烹かつらにおいて開催された。出席22名で羽村市側から並木市長と川口福祉部長の御臨席を賜った。昨年退会され京都に転居を予定されている元会長の東先生もご出席の予定で横田会長と表彰状、バラの花束を用意していたが、当日体調が悪く出席が急遽取りやめになったのは残念であった。さてここ数年羽村では会員数が着実に伸び、毎年ニューフェイスが忘年会に参加している。今年も真愛眼科の武藤先生、羽村三慶病院の浅原先生、双葉クリニックの渡部英一先生がデビューされ、それぞれ自己紹介された。羽村医師会は伝統的に和気藹々とした雰囲気の特徴であり、忘年会に最もよくその特徴があらわれる。心根の良い先生ばかりで、有望な（何が？）若い先生も加わりとても2時間ではそれぞれの先生と充分話をする時間が無かったのは心残りだった。今年は残念ながら参加できなかった先生もぜひ来年は参加してください。



あきる野地区

あきる野市保健医療連絡会

葉山医院 葉山 隆

毎年恒例のあきる野市医師会会員と市保健課の職員との合同忘年会が五日市の紀伊国屋で12月10日（金）に開催された。この会はこの一年間の市保健事業の円滑な運営を祝い、そして来年のそれを祈念しながら皆が和気あいあいと楽しく飲む会です。最初に小机地区医師会会長が開会の挨拶をし、医師会としては近い将来、市に母子保健事業を統括する保健センターの建設を希望したいことを話した。続いて市から私市福祉部部長が、市議会でも市民の健康が重要なテーマとなっていること、医師会との連携が重要なことを述べ挨拶された。また阿伎留病院を代表して岡田院長が挨拶され、先日医師会との懇親会を行ったように様々な場を通して医師会との連携を深めていきたいと述べられた。そして乾杯の音頭とともに宴会が始まった。市の職員は若くて気さくな方々が多く、医師会の会合と少し違った華やいだ雰囲気で進行した。そしてビンゴ大会。若い人が選んでいるためか、これがまたなかなかセンスの良い賞品が揃っている。去年私は電動式ラジコン飛行機であった。これはまだ人目



が気になって飛ばしていない。今回は温熱ヒーターであったが、隣の方と交渉成立してかわいいクリスマスツリーをゲットした。最後に三人の方による手締めが行われ、楽しい忘年会は幕を閉じた。



瑞穂地区

瑞穂町医師会忘年会

新井クリニック 新井 敏彦

恒例の医師会の忘年会が青梅市の料亭「井中居」で行われました。

医師会長の開宴の挨拶では、京都清水寺、今年の漢字に「災」が選ばれたように、台風の上陸、真夏日の記録更新、中越地震など、大変な一年でしたが、幸いにも医師会活動では大過なく一年が送ることが出来、関係各位のご協力に対して感謝の言葉が送られました。そして、高水先生の乾杯のご発声となり、薄明かりの中おいしい懐石料理を堪能し、お酒も入り、女性が美しく見えたのは「夜目、遠目、傘のうち」の格言ではなかった気がしました。

今回、新たに医師会員として入会された栗原先生（栗原医院）、池田先生（老健施設 菜の花）の自己紹介がありました。その後、恒例のビンゴゲームとなり例年に増して豪華な景品となり、皆様方の満足顔が印象的でした。最後に川間先生の音頭で恒例の7本締めでお開きとなりました。



秋川流域地域医療連携懇親会開催

近藤医院 近藤 之暢

より良き地域医療を行うためには、病診連携を含め地域医療に従事する医師たちが互いの診療状況や事情を理解し合い顔見知りになっておくことが重要であろうと考えられる。

これらを少しでも実行に移そうと、11月1日（月曜日）公立阿伎留病院を中心とした秋川流域医療施設の医師会員が集まり懇親会を行った。

地域を代表する公立阿伎留病院からは病院長以下25名の医師が参加。周辺からは開業医18名と多数の参加があった。

会場は少しでも互いの意見や情報が交換できるようにあきる野市内のイタリアンレストラン『トリノ』で立食形式で行われた。

会はあきる野地区長の小机敏昭医師の言葉から始まり阿伎留病院岡田清己院長の挨拶、乾杯、懇談、食事などをしながら進行的。普段診療情報提供書や電話や紹介患者を通じての連絡しかとれない互いの状況、事情などの情報交換や親睦を深める場となり、午後7時より10時過ぎまで和やかな雰囲気の中楽しい時間を過ごした。

途中、約1時間の時間を割り自己紹介を兼ね、通常なかなか知る事の出来ないお互いの立場や状況希望などを述べあった。

3時間の楽しい時間もあっという間に経過し、また同様な場を設け、よりいつその親睦を深め、ひいては地域医療のよりよい環境を整えていく場の一つとして活用できれば良いという思いとともに閉会となった。





学術部 Information



《1月》

西多摩医師会学術講演会のご案内

1 日 時：平成17年1月19日（水）19:30～

場 所：青梅市立総合病院 南棟3F 講堂

演 題：『炎症・脂質代謝異常と血管機能』

東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 助教授 吉田 雅幸 先生

2 日 時：平成17年1月21日（金）19:30～

場 所：青梅市立総合病院 南棟3F 講堂

演 題：『糖尿病患者における血压管理』

東京医科大学八王子医療センター

糖尿病・内分泌代謝内科 助教授 大野 敦 先生

《学術講演会要旨1》



平成16年11月11日（木）

演題：「C型肝炎治療の新しい展開

ペグインターフェロン・リバビリン併用療法の登場」

講師：青梅市立総合病院消化器科部長 野口 修 先生

平成2年に始まったC型肝炎に対するインターフェロン治療は10年近くの間単独治療が行われていた。この間に米国ではリバビリンが開発され、さらに長期持続型製剤であるペグ化インターフェロンの実用化にこぎつけており、国内への導入が待たれていた。小生も前任地で国内での臨床開発治験に携わり、良い感触を得ていたが、1昨年リバビリンが承認され、平成16年末にようやくペグ化インターフェロンの発売にいたった。これによってC型肝炎に対する抗ウイルス治療は新時代に入ったといえよう。

ペグ化インターフェロンとはインターフェロン分子にポリエチレングリコールを重合させることにより、体内での代謝を遅らせ、一回の投与で1週間有効な血中濃度を維持することができるようにした製剤である。これまで週3回通院注射を必要としていた方々はこれにより週に1度の通院で十分になり、治療のQOLが向上する。しかし、ペグ化インターフェロンの効果は単に便利になった、というだけにとどまらず、従来型インターフェ

ロン治療よりも高いウィルス消失効果（著効率）をしめし、約60%の症例で寛解が得られる。さらに、血中濃度の上昇・下降が緩徐であるため投与時の発熱、倦怠感などの自覚症状が著しく減っている。一方、白血球（顆粒球）減少、血小板減少などの所見は従来型インターフェロンよりも目立つ傾向にあり、減量・中止基準を注意深く見守る必要がある。すなわち、患者様にはより優しく効きが良い治療、医師にとっては適応と管理を十分に考える必要のある治療といえよう。

今回発売になるペグ化インターフェロンはリバビリンとの併用が認められており、当院でも年始より第1例目が早速導入されるが、地域の先生方のご協力をいただいて肝硬変・肝癌へ進行する患者様を少しでも減らすべく努力させていただきたいと考えている。

《学術講演会要旨2》

平成16年12月10日（金）

演題：「日常診療で直面する痛みと半導体レーザー治療」

講師：駿河台日本大学病院麻酔科助教授 佐 伯 茂 先生

ペインクリニックについて半導体レーザー治療は、1. 帯状疱疹後神経痛、2. 筋緊張性頭痛、3. 腰痛症、4. 肩関節周囲炎、5. 腱鞘炎、6. 関節リウマチ、7. 肋間神経痛など、さまざまな疾患に用いられています。その効果は疾患によって異なっており、腱鞘炎、筋々膜性腰痛症などはレーザーが効きやすい疾患であり、カウザルギーやCRPSなどの神経因性疼痛はレーザーが効きにくい疾患といえます。治療効果判定は少なくとも10回を1クールとし、これで効果がなくとも2～3クールは施行してみるべきでしょう。

低出力レーザー治療の利点として、①患者に苦痛を与えることなく施行できること、②副作用、合併症が殆ど認められないこと、③高齢者や全身状態が不良なため神経ブロックが施行できない患者に対しても安心して行えること、④患者が自分で照射し治療ができることなどがあげられます。

一方、欠点としては、①機械が高価であること、②患者の即時的満足感が得られにくいこと、③即効性に乏しく、複数回の治療が必要であることなどがあげられます。

半導体レーザーは患者への侵襲がきわめて少ないため、若年者から高齢者までの幅広い年齢層の症例に施行可能であるという利点がありますし、合併症が殆どないことも特筆に値します。半導体レーザー治療は疼痛管理に苦慮している場合には一度は試みてしかるべき疼痛治療手段の一つであり、今後もペインクリニックでは重要な位置をしめるものと思われます。

講演ではわれわれの施設での各種疾患に対する治療効果について自験例も交え解説する。

● 理事会報告

★ Information ●

11月定例理事会

平成16年11月24日(火)

西多摩医師会館

〔出席者：真鍋・小机・横田・新井・伊藤・神尾・酒井・田坂・野本・細谷・足立〕

【1】報告事項

1. 都医地区医師会長協議会報告（真鍋会長）

(1) 都医からの伝達事項

- ① 新潟県中越地震（義援金、医療救護班）について
内科系と精神科系の救護班を派遣し、救護支援活動を行った。
- ② 新潟中越地震の被災者の定期予防接種に対する東京都医師会の対応について
高齢者等インフルエンザ予防接種に対しては、区市町村で減免措置を講じない場合は、東京都医師会が自己負担分を負担する。
- ③ 在宅難病患者訪問診療事業の実施状況報告について（平成16年度第2四半期）
西多摩医師会は9名と、第1四半期の4名に比べ実績増加。
- ④ 平成16年度医療廃棄物適正処理研修会の開催について
12月18日（土）午後1時30分～ 東京都江戸東京博物館ホールにて開催。
- ⑤ 東京都医師会ホームページリニューアルについて
- ⑥ 盲・聾・養護学校におけるたんの吸引等の取扱について
厚生労働省の通達では、医師・看護職が行うことが原則であるが、一定の条件下では教員が行うこともやむを得ないとした。
- ⑦ 平成15年度生涯教育制度集計結果の概要について
日医全体では申告率71.4%、東京都医師会では60.8%、西多摩医師会では87.5%。
- ⑧ 日本医師会認定産業医制度における研修会の開催について
- ⑨ 「国民医療を守る東京大会」の開催について
11月27日（土）午後2時～ 文京シビックホールで開催。

(2) 協議事項

なし。

(3) 地区医師会からの報告

1. 東久留米三師会「禁煙宣言」について（東久留米医師会）

(4) その他

1. 東京の精神保健福祉について

2. 各部報告（各担当理事）

- 総務部：1) 署名運動回答状況 A会員193会員（内31会員）2,775人
2) 西多摩健康フォーラム（桧原村やすらぎの里）（11/20開催）（本号17頁参照）

学術部：1) 平成 15 年度生涯教育制度集計結果概要

西多摩医師会の申告率は診療所 90.3%、病院 80%、全体で 87.5%。

全国平均 71.4% よりかなり高い水準。

2) 第 80 回多摩医学会講演会報告 (11/20 開催)

3) 市民健康講座 (11/27 開催) 参加依頼

各自治体広報誌、五大新聞行事欄、多摩ケーブル、西多摩新聞広告などに掲載、多数の会員関係者の出席をお願い。

介護保険：主治医研修会 (11/29 開催) 出席依頼

3. 地区会よりの報告 (各地区理事)

青 梅：12 月 2 日地区総会 「休日診療所移転問題について」。

福 生：11 月 29 日地区会。

羽 村：11 月 16 日定例地区会 休日当番体制について検討。

あきる野：11 月 15 日例会 「小児救急について」電話相談・上手なかかり方、耳鼻科・眼科救急について討論。

瑞 穂：特になし。

日の出：12 月 3 日 保健衛生事業調整連絡会議。

4. その他

11 月 30 日 公立福生病院調整委員会 (本号 20 頁参照)

【2】報告承認事項

1. 入会会員について ―― 承認 ――

入会 B 会員：公立阿伎留病院 2 名 武蔵野台病院 1 名

退会 公立阿伎留病院 1 名

【3】協議事項

1. 東京都医師会では、新潟中越地震の被災者の高齢者インフルエンザ予防接種の一部負担金を負担することを決定。→被災者が予防接種のため、医療機関を訪れた場合、窓口で一部負担金を徴収しない (一部負担金の請求方法については後日連絡あり) 旨を会員に FAX で周知徹底する。広報 12 月号の伝言板にも掲載する。

12月定例理事会

平成16年12月14日(火)

西多摩医師会館

〔出席者：真鍋・小机・横田・新井・伊藤・酒井・瀬戸岡・田坂・中野・野本・原・細谷・松原〕

【1】報告事項

1. 各部報告 (各担当理事)

総務部：忘年クリスマス会報告 承認 (12/13 開催)。

参加者会員 53 名 同伴者 85 名 参加者総数 138 名 (本号 3 頁参照)。

経理部：医師政治連盟会費納入登録状況 口座振替 98 件、事務所集金 38 件。

学術部：市民健康講座 (11/27 開催) 参加者 134 名 (本号 19 頁参照)。

介護保険：主治医研修会 (11/29 開催) 参加者 38 名。

学校医：第 20 回西多摩学校保健連絡協議会報告 (11/25 開催) (本号 19 頁参照)。

医療機能連携推進委員会報告 (12/ 1 開催)。

2. 地区会よりの報告（各地区理事）

青 梅：12月2日総会 休日診療所移転について（継続審議）。

1月12日新年会。

福 生：11月29日総会 精神科医師の学校医への参入について。

12月10日合同忘年会。

羽 村：11月26日地区会。

12月6日忘年会（本号22頁参照）。

あきる野：12月10日忘年会（本号22頁参照）。

瑞 穂：12月17日忘年会（本号23頁参照）。

日の出：特になし。

3. その他

会長より報告

○労働安全衛生大会（福生市民会館12/3開催）報告。

○公立福生病院運営協議会（仮称）報告（11/30開催）（本号20頁参照）。

【2】報告承認事項

1. 入会会員について —— 承認 ——

入会 A会員：桑子行正（（医社）秀美栄 ゆき皮膚科クリニック、あきる野）

2. 病院部 病院委員会委員の推薦について（原理事） —— 承認 ——

岡本 忠会員（高木病院 院長）

3. 国民健康保険診療報酬審査委員会委員の推薦について（敬称略） —— 承認 ——

高木 直 新町医院（整形外科）

田坂 哲哉 熊川病院（内科）

4. 西多摩健康危機管理対策協議会委員就任の推薦について（敬称略） —— 承認 ——

医療関係者 西多摩医師会副会長 小机 敏昭

西多摩医師会病院理事 原 義人

5. 新年第1回の定例理事会について（総務理事） —— 承認 ——

特別の協議・報告承認事項なき場合、恒例により休会とする。

6. インフルエンザワクチン安定供給・確保対策に係る地区医師会の窓口設定について

窓口担当理事は酒井理事とする。

—— 承認 ——

【3】協議事項

1. 東京都医療機能連携推進事業について（小机副会長） —— 承認 ——

「医療連携システム」推進状況及び同平成16年度連携予算承認について

医療連携 FAX システム、暗号メールシステム、暗号掲示板システムは完成。ホームページ改修作業中。画像情報送受信システム作成中。

2. 新年賀詞交歓会について（平成17年1月22日（土）PM18時～）（中野理事）

式次第、余興などについて：フルート・ピアノ演奏、囃子

3. その他

- 市民介護フォーラムについて（病院部 原理事）
平成 17 年 3 月 11 日（金）PM7:00 あきる野ルピア、医師会主催で行う。
予算については再度検討する。
- 新潟県中越地震災害義捐金の呼び掛け（依頼）について
12 月 14 日現在、義捐金 1,531,564 円
- 新潟県中越地震被災者の定期予防接種に対する東京都医師会の補足説明について
「新潟」と記載された接種票のコピーを保管、期間終了時コピーで地区医師会が一括東京都医師会へ請求する。
- 生活保護法指定医療機関指導立会（あきる台病院）17 年 1 月 17 日（月）PM 1 時より
真鍋会長が立会
- 西多摩医師会後援会名義の使用について
今回の依頼はチャリティーではないので、名義使用不許可とする。
- 西多摩医師会第 2 回定時総会までの日程について
- 年末年始西多摩医師会館休館について
平成 16 年 12 月 29 日（水）～ 平成 17 年 1 月 4 日（火）まで休館する。
但し 28 日（火）業務は午前 12 時まで。
- 高木病院より MRI 検査の広報への掲載依頼について
私立病院の場合は掲載しないこととする。
- クリスマス会、新年会、納涼会の会場内禁煙について
会場内は禁煙とし、会場の外に喫煙場所を設置する（新年会より実施）。

会 員 通 知

- 会報
- 宿日直表（青梅・福生・阿伎留）
- 第20回西多摩学校保健連絡協議会開催
- 新潟県中越地震の定期予防接種に対する東京都医師会の対応について
- 新潟県中越地震災害義援金について
- 新年賀詞交歓会案内（1/22）
- 産業医研修会（産業医学振興財団）
- ポスター「親医療証をお持ちの方へ」の掲示について
- 親医療証をお持ちの方へ（ポスター）
- 日本医師会市民公開講座「動物由来感染症」チラシ
- 東京都「知っていますか？乳がんのこと」
- 産業保健フォーラム IN TOKYO 2005
- 保健所「健やか親子21は21世紀の母子保健を推進する国民運動計画です」
- 都医ニュース

て頂く頭のトレーニングページです。各病院でのプランナーを青梅市立総合病院副院長 原先生、公立福生病院循環器科部長 井關先生、公立阿伎留病院副院長 西成田先生の3人の先生方にお願ひし、月替わりで様々な科の先生方より問題を出して頂く予定になって

おります。どうぞご期待下さい。

本年も編集委員メンバーが先生方の所へ原稿のご依頼にお伺いすることが多くなると思われませんが、その節にはご寄稿の程何卒宜しくお願い申し上げます。(お顔写真もお忘れなく) 野本正嗣

お知らせ

事務局より お知らせ

平成17年2月(1月診療分)の

保険請求書類提出

2月8日(火)

—— 正午迄です ——

法律相談

西多摩医師会顧問弁護士 鈴木禧八先生による法律相談を毎月第2水曜日午後2時より実施しておりますのでお気軽にご相談ください。

- ◎相談日 1月は12日(水)
2月は9日(水)の予定です。
- ◎場所 西多摩医師会館和室
- ◎内容 医療・土地・金銭貸借・親族・相続問題等民事・刑事に関するどのようなものでも結構です。
- ◎相談料 無料(但し相談を超える場合は別途)
- ◎申込方法 事前に医師会事務局迄お申込み願います。
- (注) 先生の都合で相談日を変更することもあります。

社団法人 西多摩医師会

平成17年1月1日発行

会長 真鍋 勉 〒198-0044 東京都青梅市西分町3-103 TEL 0428(23)2171・FAX 0428(24)1615

会報編集委員会 野本 正嗣

瀬戸岡俊一郎 石井 好明 桂川 敬太 込田 茂夫 坂井 成彦

鈴木 道彦 馬場 眞澄 葉山 隆 細谷純一郎

印刷所 マスダ印刷 TEL 0428(22)3047・FAX 0428(22)9993

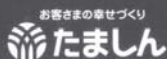
健康が 21世紀の扉を開く



命の輝きを見つめ続けて……
(株)武蔵臨床検査所

食品と院内の環境を科学する
F・S サービス

〒358-0013 埼玉県入間市上藤沢309-8
TEL 042-964-2621 FAX 042-964-6659



「身近なたましん」が、「その場でたましん」になる。

365日ご利用OK! その場でカンタンお取引き!

「たましんダイレクト」は、電話やパソコン、携帯電話、Lモードを使って、
「たましん」とお取引きできるサービスです。窓口やATMに行かなくても、
たましんがその場でご利用いただけます。

**たましん
ダイレクト**

**Tamashin
Direct**

個人向け **たましん〈パーソナル〉ダイレクト** 事業者向け **たましん〈ビジネス〉ダイレクト** 電話 パソコン 携帯電話 Lモード

<http://www.tamashin.jp> たましん
コールセンター **042-528-0121** オー!ワンツーワン

多摩中央信用金庫